



## 新年度を迎えて

神河中学校 PTA 会長 小林 哲也

この度、令和 8 年度神河中学校 PTA 会長をお請けすることとなりました。

不慣れが故に皆様には何かと御不便・御迷惑をお掛けしますが、何卒よろしくお願いいたします。

早いもので新学期が始まって2ヶ月が過ぎました。1年生のお子様にとっては、小学校生活とは全く違った学校生活を送られているのではないのでしょうか。2年生のお子様にとっては、1学年繰り上がり下級生が入学してこれ、部活動では先輩という立場になって見本となる行動を取らないといけないのではないのでしょうか。3年生のお子様にとっては、最終学年として責任ある行動を求められるでしょう。また、高校受験という大きな試練が待っています。

親として、我が子が心配でならないこともあろうかと思えます。しかし、親が思う以上に子供はしっかりしているかもしれません。

時には子供と向き合い、時には子供の目線になって、我々親も成長していければと思います。焦らず、じっくり過ごして参りましょう。



新入生歓迎校空会 おうぞら



## 保護者・地域とともに、未来を拓く子どもたちを育む

校長 鎌田 雅弘

新緑の山々が青空に映え、心地よい風が校舎を吹き抜けていく季節となりました。保護者の皆様、そして地域の皆様には、日頃より本校の教育活動に温かいご理解と多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。私にとってこの神河町は、教員としての歩みを始めた原点であり、今も心に輝き続ける思い出が詰まった特別な場所です。再びこの地に還り、1町1中となった本校で子どもたちの成長に携われることに、深い縁と大きな使命感を感じております。

私の教員生活のスタートは、かつてこの町にあった南小田小学校でした。大学を卒業したばかりで、右も左も分からなかった若き日の私を迎えてくれたのは、全校児童わずか55人の温かい学校でした。当時は宮野で下宿生活をしていました。右往左往する新任教師の私を下宿のおじさんとおばさん、保護者の方々、そして地域の皆様はまるで家族のように温かく見守って下さいました。農作業や鮎掛けのやり方を教えていただいたり、手作りの料理や採れたての野菜を届けていただいたりしたことを今でも鮮明に覚えています。人と人とのつながりの温かさ、地域全体で子どもを育てるという教育の原点を、私は南小田の地で身をもって学ばせていただきました。

その後、大河内中学校へと赴任し、8年間過ごさせていただきました。思春期という多感な時期を過ごす生徒たちと、学校生活や部活動で正面から向き合い、共に笑い、共に涙した日々は、私の教員人生の大きな財産となっています。部活動では保護者の皆様に、早朝からのお弁当作り、試合の送迎、泥だらけのユニフォームの洗濯、そして試合のときの心のこもった応援…など何物にも代えがたい大きな支えをいただきました。壊れたピッチングマシンやトンボ(グラウンド整備に使う木製レーキ)を近所の方が知らぬ間に修理してくださっていたこともありました。毎日の練習後にバックネット前で歌った校歌は、今でも忘れられません。さらに時を経て7年前、私は1年間だけ、この神河中学校で教鞭を執る機会に恵まれました。かつて出会った子どもたちが大人になり、その次の世代がこの神河中学校で元気に学んでいる姿を見たとき、胸が熱くなるのを覚えました。時代が移り変わり、学校の形が変わっても、神河の地に息づく「心の温かさ」や「子どもを大切にしたい想い」は、少しも変わらずに受け継がれているのだと確信いたしました。

私を育ててくれたこの思い出深い神河町に、少しでも恩返しをしたい……。それが、校長としてここに立つ私の何よりの強い願いです。現在の神河中学校は、町内唯一の中学校として、地域の未来を担うすべての子どもたちが集う場所です。本校では「絆を深め やさしく 楽しく たくましく ~ふるさと神河を愛する生徒の育成~」を学校教育目標に掲げています。仲間との「絆」を深め、互いを思いやる「やさしさ」を持つこと。学びや学校生活を「楽しく」充実させ、困難に負けない「たくましさ」を身に付けること。多様な仲間と出会い、互いを認め合いながら切磋琢磨できるこの環境で、生徒一人ひとりが神河中学校で学んでよかったと思い、「ふるさと神河」に誇りを持てる学校づくりに全力を尽くします。

予測困難と言われるこれからの時代。教育の方向性として、中央教育審議会の論点整理でも「生涯にわたって学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生の舵を取り、持続可能な社会の創り手となる子どもたちを『みんな』で育むこと」と示されています。子どもたちが自ら未来を切り拓いていく力を育むためには、学校だけでなく、保護者の皆様、そして地域社会全体の力を指します。私がかつて皆様からいただいた「心の温かさ」を、今度は学校教育という形で子どもたちに還(かえ)していく

と同時に、地域全体で子どもたちを育む、そんな「地域とともに進んでいく学校」を目指したいと考えております。家庭の温かい支え、地域の力強い見守り、そして学校の熱い思い…。この三者が手を取り合い、同じ方向を向いて歩いていくことで初めて、子どもたちは安心して大きく羽ばたくことができます。教師、保護者、そして地域の皆様が一つの大家族のように生徒たちを導き、共にその成長を喜び合える関係でありたいと願っています。神河中の子どもたちのために、教職員一丸となって全力を尽くしてまいります。今後とも、本校教育への変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 新年度を迎えて ～きらきらと輝く、18回生のスタートライン～

1 学年主任 松井 英人

桜の季節からあっという間に時が流れ、新年度がスタートして早くも2カ月が経過しました。小学校よりも少し大きめの制服に身を包み、緊張した面持ちで校門をくぐった入学式が、早くも懐かしく感じられます。

この2カ月間で、最も嬉しく、そして頼もしく感じているのは、生徒たちの「明るく元気な挨拶」です。4月のスタート以来、誰に言われるでもなく、毎朝心地よい挨拶が校舎に響き渡っています。この素晴らしい習慣が今日までずっと続いていることは、彼らの純粹さと、これからの成長への意気込みの表れだと確信しています。

5月に入り、生徒たちは新しい学校生活のペースにもすっかり慣れ始めたようです。部活動も本格的に始まり、先輩たちの逞しさや優しさに触れ、いつかは自分も…と、憧れを抱いています。自分で悩み、自分で決めた部活動だからこそ、どの生徒も非常に意欲的に、汗を流しながら取り組んでいます。教室で見せる表情とはまた一味違う、真剣な眼差しや弾けるような笑顔がとても印象的です。

こうした生徒たちの目覚ましい成長は、学校の指導だけで成し遂げられるものではありません。毎朝元気に送り出し、家庭で温かく支えてくださる保護者の皆様のご理解とご協力があるからこそだと感じています。日頃の多大なるサポートに、心より感謝申し上げます。

中学校生活はまだ始まったばかりです。これから学習や部活動、行事などを通して、子どもたちはさらに大きく、たくましく変化していきます。時に壁にぶつかることもあるかもしれませんが、学校と家庭がしっかりと手を取り合い、一步一步伴走していければと考えております。

子どもたちの輝く未来のために、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 3年生になって



私は、何事も全部、自分しだいで将来も決まると思っています。部活や勉強、人間関係でも「自分がどうするか」が大切だと思いました。

部活でも勉強でも、ちゃんとやると伸び、やらなかったら伸びないということが今までの経験からよく分かりました。自分の目標を達成できるように考えて、練習に取り組みたいです。勉強では、受験、テストに向けて課題に早めに取りかかり、3年生になったので毎コソノートの自主学習にも取り組みたいと思います。

頑張ることも大事だし、体育大会などいろんな行事も今年が最後なので楽しみたいです。中学校のメンバーで過ごすのは今年が最後なので、たくさん思い出を作って仲良くしたいです。

先輩として、みんなを盛り上げ、笑顔で卒業できるように1年間頑張ります。

僕は2年生を終えて最上級生の3年生になりました。本当に2年間があつという間に過ぎて、あこがれていた3年生になってビックリしました。3年生になるとすべての日が中学校最後になり、もっと大切にしていけないとなと改めて思いました。

1年生のころ「まだまだやん」と思っていた修学旅行、もうあと4か月で始まる体育大会、クラス全員で力を合わせていく合唱コンクール、1つ1つの行事で悔いが残ることがないように、このクラス、学年で頑張っていきたいと思いました。

3年生になった今、支えてもらうのではなく、自分から前に出て恩を返すこと、1、2年生を支えていくことを目標にして1年間頑張っていきたいです。

もう1つの目標は最後の総体で先生、仲間全員と力を合わせて1勝ずつ勝利をしていき、良い思い出を刻めるように頑張っていきたいです。



3年生になって、私は「周りに流されない自分」を大切にしたいと思う。

これまでの私は、周りの様子を見てから行動することが多かったり、間違えることが怖くて発言をあきらめたり、周りに合わせてしまうことが多かった。

3年生は周りから見ると、学校の中心となる学年であり、行動が周りに影響を与える立場になる。だからこそ、完璧を求めすぎず、今の自分にできることに精一杯取り組みながら、小さな努力を積み重ねていきたいと思う。また、進路について考える時期でもある。不安もあるが、次のステージに進めるような時間にしていきたい。

3年生としての1年間は、あっという間に過ぎてしまうと思う。この1年が自分を成長させる大切な時間になるよう、1日1日を過ごしていきたい。



3-1



3-2

3年生になって中学校生活最後の年で、修学旅行や学校行事など楽しみなこともあります、それより進路や受験のことで不安な気持ちでいっぱいです。そして頑張りたいことがたくさんあります。

大きく3つあって、1つ目は、勉強です。3年生はテストも多く、受験に向けて計画的に勉強したいです。

2つ目は、部活動です。最後の部活なので日々の練習を大切に、悔いなく終われるようにしたいです。

3つ目は、精いっぱい楽しむことです。勉強や生活でしんどいこともたくさんあると思いますが、それを吹き飛ばせるぐらいの楽しいことを見つけ、たくさん思い出を作りたいです。そして、今しかないこの時の1秒1秒を大切に過ごしていきたいです。

中学校生活最後の1年も、勉強や部活動に悔いのないよう取り組み、みんなと過ごせる日々を大切にしながら、頑張りたいです。



2年生になって、先生がおっしゃっていたように「1年生は中学生になったからがんばる」、「3年生は受験があるから頑張る」みたいになるけど、2年生は目標があいまいになりやすい学年だから、気を抜かずに何のトラブルもないようにしたいです。

僕は2年生になって、特に頑張りたいことが2つあります。

1つ目は、勉強を頑張ることです。1年生の頃は、テスト期間の2週間だけ勉強をがんばっていたけど、2年生では、毎日授業でやったところをその日のうちに復習しておいて、ワークなどもできるところを少しずつやっておいて、テスト前にためておかないようにしたいです。

2つ目は人間関係です。理由は、クラス替えて話したことのない人でも、一緒になったから、この1年間で仲良くなりたいたからです。友だちを大切にしたい楽しい学校生活を送っていきたいです。

このクラスのみんなが3月にこのメンバーでよかったなと思えるようなクラスにしたいです。体育大会、合唱コンクールなどの行事も一切、手を抜かずに全力でできるクラスにしたいです。

2年生の後期になったら、この学年の誰かが生徒会長だったり、専門部長になったりして、学校全体を引っ張っていくようになるから、一つ一つの行動に責任をもって生活していきたいです。

2年生はぼけーっと過ごしていたら、気づいたらあっという間に進級して3年生になってしまうと思うから、毎日一日一日を大事にいつでも目標をもってそれに向かって頑張れるようにしたいです。家に帰ってからとかも、ゴロゴロしたり、ダラダラしたりして過ごさずに、洗い物、洗濯など家の手伝いもできるようにしたいです。

学級目標の「常笑で常勝!~全員が輝き一人一人が助けあう34人のストーリー~」にもある、常笑みたいに常に笑えるようなクラスにしていきたいです。最終的にこの学級目標にあることを全て達成してどこにも負けない最高のクラスにしたいです。

ぼくの1年間の目標はこのクラス全員と仲良くなって部活の後輩とも仲良くなって、1・2・3年生と学年関係なく、意見を言い合えるようになることです。



2-1





2-2

私もとうとう「先輩」と呼ばれる立場の2年生になってしまった。

4月の始業式、クラス替え発表を見てドキドキした。1年生で仲良くなった友だちと離ればなれになってしまった不安と、一緒のクラスになりたかった友だちと同じクラスになれて楽しみな気持ちが混ざったドキドキだった。いつもとは違う階段を上ると、改めて自分が2年生になったことを実感した。教室に入ると見慣れた先生がいて、少し安心することができた。次々と新しいクラスメイトが教室に入ってくる。その度これからうまくやっていけるか心配になっていった。自己紹介では、すでにガッチガチに緊張してしまったけど、面白い話をしてくれる子がいて、場の雰囲気明るくなった気がした。休み時間になると友達が話しかけてくれて、私はすごくうれしくて、最初の不安が嘘のように消えていった。

しかし次の日、学年集会や先生の話で、「先輩」「後輩」という言葉が多く使われているのを見て、不安の気持ちが増える一方だった。私はいろんなことを考えて、心配になった。まず、「先輩」と呼んでもらえるだろうか、とか、違う小学校出身の子たちとどう接すればいいのだろうと、考えてしまううちに、気持ちは沈むばかりだった。そんな中、私は入学式を先輩として迎えた。昨年とは違う場所で、新1年生の背中を見ていると、また私が入学してから1年が経ち、2年生になったことを実感した。

次の日から、元3年生がいなくなって人が少なくなっていたバスにたくさんの1年生が乗車してきた。1年生と少しずつ話していくうちに不安は少しずつ減っていった。

でも、もう1つ問題がある。それはクラスの離れた友だちと、フロアが違うから会えないことだ。もちろん会いに行けばいい話だけど、会いに行かないと話せないと思うと、距離ができてしまうのではないかと考えてしまう。今も友だちは更衣室で話しかけてくれるけど、もっとたくさん話したいと思ってしまう。

そんな私にもたくさんの友だちができて話しかけてくれることが増えた。そのおかげで心配性な私も今は楽しく学校生活を送れている。学校は部活も勉強も大事だと思うけど、それは友だちがいて楽しくなるものだ、ととても感じた。これからも私が不安にならないことはないと思う。でも、友だちがいればなんとかやっていけるような気がしている。



今、自分ができることは、英語だけです。公文をやっていたから、英語の点数は良かったけど、これからもっと難しくなっていくから、もっと頑張りたいです。今、自分が苦手なことは、社会、理科、数学、国語です。特に苦手なのは社会で、テストの点数がすごく悪かったからです。もっともっという点数が取れるようになるためにきれいにノートを取ったり、家で復習したりしたいと思っています。

友達関係では、今の自分は小学校で一緒だった女子としか話せていません。ほかの小学校の人たちとも、たくさん話して仲よくなりたいたいです。そのために、自分から声をかけたいです。

1年後の自分は、クラスの子となじんでいて、いろいろな子と仲が良くて、勉強が今よりできるようになっていて、テストでもいい点をたくさんとれる人になりたいです。そのために毎日勉強したり、少しでもたくさんの人と話をしたりして、そうなれるように努力したいです。

1年後には、めっちゃ仲が良くて、クラス替えしたくないと思うくらい楽しいクラスにしたいです。だから、私も悪口を言わないし、誰かが言っていたら止めたいと思います。みんなで最高のクラスにできると私は思っています。

最後に、未来の自分へのメッセージです。「今はたぶんこのクラスが大好きだと思います。誰とでも話せて、すごく平和で楽しいクラスになっていると思います。勉強もできるようになっていて、成長していると思います。このクラスが別々になるのは嫌だと思っていますよね。想像しているだけで楽しみです。」

私は、中学校に入学してすごくドキドキしながら通っています。給食を食べるのが遅い、自分の勉強のスピードが分かっていないなど不安いっぱいです。運動が苦手で、好きなスポーツしか普段は身体を動かさないとします。得意なことはないかもしれません。別に勉強もそこまでだと思っています。

でも、新しい環境だからこそいろいろなことに挑戦できればと思います。文化部に入りたかったわけではないけど、貴重な経験はできると思っています。だから、一年後には、文化部に入ってよかったな、このクラスで楽しかったなと思えるように、日々楽しみたいです。

1年経つと、自分の思考や学習能力、人からの信頼が変わってくると思います。でも、正直、未来のことなんて分からないし、これからの生活で決まるとします。絶対に後悔しない1年にしたいです。

クラスのみんかも変わっていると思います。いっぱい友達を作りたい!けどやっぱり話しかけられない…。でも、1年後に「あの時は気まずかったよね」と思い出話ができる友達がほしいです。みんな友達作りたい…はずです。

今は毎日を不安いっぱいでも過ごしているわけだけど、それが徐々に消えて、もっと素の自分を出せればと思います。

自分で考えて行動する。それが1年後にできてたらいいなと思います。楽しみいっぱい学校に登校できればと思います。これから1年間頑張りたいです。



## ものづくり体験学習

初めてプロのカメラに触りました。匠の方が「どうやったら自然光を取り入れていい写真が撮れるか」「体や顔の角度を変えると何が変わるのか」など、初心者で何もわからない私たちに優しく丁寧に教えてくださいました。ただ写真を撮るだけではなく、人と人との心のコミュニケーションを大切にしながら撮影することを体験学習で学ぶことができました。カメラで撮影する楽しさもあり、上手く撮影するための難しさもあったけど、自分だけのオリジナルポートレートができて良かったです。将来、この体験学習で学んだ、「人に対するコミュニケーションの取り方」をいかしていきたいです。貴重な経験になり、学ぶ楽しさがわかりました。

私がテープカッターを作って難しかったことは、自分のイニシャルの形を糸鋸で切ることでした。私のイニシャルは丸みがあるのでとても難しかったです。少し形が変になったけど、みんなより時間をかけて頑張りました。私はこの体験を通して、ものづくりの楽しさを知りました。完成した時の達成感はとても嬉しかったです。工作は好きだけど、家ではあまりモノを作ったりしないので、暇な時があれば何か作ってみようと思いました。



## 文化・研修部の皆さんから



### 「支え合い、見守り合いながら」

PTA 副会長 山内 恵里佳

花々が色鮮やかに咲き始める季節となりました。新しい年度を迎え、そして新たに入学された皆さん、ご家族の皆さまに心よりお祝い申し上げます。

子どもたちは、新しい教室、新しい友達、新しい先生との出会いに胸を膨らませながら新たな一歩を踏み出しています。一方で、期待だけでなく、不安や緊張を感じている子どもも少なくありません。大人にとっては小さな変化に思える事でも子ども達にとっては大きな環境の変化です。そんな時だからこそ、家庭・学校・地域がしっかりと手を取り合い子どもたちを温かく見守っていくことが大切なのではないでしょうか。

近年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。情報化社会の進展により、子ども達は幼い頃からスマートフォンやインターネットに触れる機会が増え、多くの情報を簡単に得られる時代になりました。便利になった一方で、人との直接的な関わりが少なくなったり、コミュニケーションの難しさを感じたりする場面も増えているように思います。また、生活スタイルの変化や価値観の多様化により、子育てに悩みや不安を抱える保護者も増えているのではないのでしょうか。

そのような中で、PTA の役割はますます重要になっていると感じます。PTA は単なる行事運営の組織ではなく、子どもたちの健やかな成長を支えるために、保護者と学校、地域をつなぐ架け橋です。子どもたちは、家庭でも、学校だけでも育つことはできません。地域の人との触れ合いや、多くの大人に見守られる経験を通して、人を思いやる心や社会性を身につけていると思います。私たち大人にできることは、子どもたちが安心して挑戦できる環境を整えることではないでしょうか。失敗しても励まし合い、悩んでいる時には寄り添い「あなたのことを大切に思っているよ」という気持ちを伝え続けることが、子どもたちの大きな力になります。日々の忙しさの中では、つい結果を求めてしまいがちですが、子どもたちは一人ひとり違った個性を持ち、それぞれのペースで成長を温かく見守り、小さな変化や頑張りを認めていくことが大切だと思います。

また、PTA 活動の本来の目的は、役員や一部の人だけが頑張ることではなく、子どもたちのために皆で支え合うことにあります。「できる人が、できる時に、できることを」という気持ちで、一人ひとりが無理なく関わることができれば、活動はより温かく、より充実したものになっていくのではないのでしょうか。地域とのつながりも、これからますます大切になっていくと感じています。子どもたちは地域の宝です。登下校を見守ってくださる方、地域行事で声をかけてくださる方、学校活動を支えてくださる方など、多くの地域の皆さまに支えられながら成長しています。子どもたちが安心して暮らし、学ぶことができる環境は、地域全体の温かなつながりの中で育まれているのだと思います。

新しい年度の始まりは、私たち大人にとっても新たな気持ちで歩み始める機会です。子どもたちの笑顔のために何ができるのかを考え、保護者同士、先生方、地域の皆さまと協力しながら、一歩ずつ前に進んでいきたいと思えます。

子どもたちが毎日を安心して過ごし、自分らしく夢や目標に向かって成長していけるよう、これからも温かなまなざしで見守っていきましょう。そして、この一年が子どもたちにとって実り多く、笑顔あふれる毎日となりますことを心より願っています。

本年度も PTA へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



### 「新しい一歩をともに」

安部 貴絵

新年度を迎え、子どもたちの成長とともに、私たち保護者も新たに PTA 役員が決まり、新しい一歩を踏み

出すこととなりました。

新一年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境に戸惑うこともあると思いますが、自分のペースで少しずつ進んでいってください。たくさんのお会いを大切に、充実した毎日を過ごしてほしいと思います。

新二年生の皆さんは、学校生活にも慣れ、後輩を迎える立場になりました。この一年も、自分らしさを大切にしながら、日々の学校生活を楽しんでください。悩んだり迷ったりすることも、その経験一つひとつが皆さんの成長につながっていきます。

そして新三年生の皆さんにとっては、中学校生活の集大成となる大切な一年です。進路について考え、悩むこともあると思いますが、一日一日、先生方や仲間と過ごす時間を大切にしながら、自分の目標に向かって歩んでください。

学校は、子どもたちが多くのことを学び、人とのつながりを深めていく大切な場です。PTAとしても、保護者と学校が協力しながら、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組みたいと思います。子どもたちにとって、この一年が笑顔あふれる充実したものとなることを心より願っております。



## 「新年度を迎えて」

藤田 智美

令和八年度を迎え、早いものでもう一か月以上が過ぎ、三年生の息子は、中学校時代の一大イベントでもある修学旅行から帰ってきました。修学旅行から帰ってきた息子の第一声は、「めっちゃ楽しかった!!何から話そう?!いっぱいある!」と本当に上機嫌でした。思い出すのも大変なのか、しおりの行程表を見ながら一つ一つ話をしてくれる息子。沖縄の地で学んだこと、感じたこと、それに加え、部屋での友達とのしょうもなく笑える出来事、班別行動での経験、その一つ一つの全てが、彼の時間を彩り良くしてくれているようでした。

長い人生の中では、中学時代の修学旅行はたった三日間、されどこの三日間は何物にも代えがたいものだったのだと息子を見て思いました。きっと将来友達と思い出話をするとき、またみんなで笑いあっているのだろうな、と未来を見た気がします。

帰宅した次の日の朝、ボソッと残念そうに「修学旅行も終わったし、勉強にシフトしていかなあかんねんな・・・。」と言った息子に、成長を感じ頼もしく思った反面、今しかないこの中学時代の時間をどうか楽しく日々過ごしてほしいと思いました。これから部活動も三年間の集大成でもある総体等の時期になってきます。悔いの残らぬよう、精一杯取り組んでもらいたいです。本格的な受験の時期も、じきにやってきます。日々の積み重ねた努力は必ず力になります。陰ながら、息子を支援続けていきたいなと思っています。

卒業式までの日々、親身になり関わってくださる先生方と仲間とともに一日一日大切に過ごしてほしいなと思います。



## 「新年度を迎えて」

大津 常満

今年の4月で中学2年生になった双子の娘は、家では、いつものようにマイペースで生活しています。

1年前、中学校に入ったばかりの時は、いろいろと心配や悩みが親子ともにありました。特に母親と祖母は人一倍心配していたと思います。予想もしないような、トラブルや悩みがいろいろあった1年間でしたが、無事に2年生になってくれたことに、すこし安心しています。2年生になって、後輩もでき、すこしずつ自立していくさまは、うれしくもありますが、寂しく思っています。小学校の頃とは違い、フォローする場面も減りました。しかし、今までもそうだったように、悩みや相談は母親や祖母にしているようなので、子育ての負担面で、一番楽をしている父親としては、もし、相談されるような場面があった時には、全力で解決に協力していこうと思っていますが、難しい年頃なので、そのような場面があるかは分かりません。それもまた寂しく思うところですが、これからも、娘のために力になれることをしていきたいと思っています。



## 「新年度を迎えて」

岸口 陽子

まず、新一年生の皆さん、そして保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

そして、新二年生、新三年生の皆さん、新しい環境に、期待と不安の両方を感じていると思います。

思えば私も、未知の世界へ踏み入れる感じて、当時は恐る恐る、またはみんなに置いていかれないよう必死で中学校生活を過ごしていたような気がします。

時代はいろいろな意味で変化の流れが激しく、もうこんなことも習うの?という学習内容や体験活動に驚きの連続です。

SNS などすごい勢いで発展していて、簡単に情報を見聞きできるので、良くも悪くも今の子供たちは知識を得るのが容易い環境です。だからこそ、私たち大人が、子供の成長を見守りつつ日々の生活の中で些細なことでも気づけるよう、さらにコミュニケーションを取ることが大事なことだと、改めて感じた今年の新年度でした。



## 「新年度を迎えて」

高橋 里奈

我が家の子は今年中学3年生と小学6年生、2人とも最高学年を迎えました。

下の子が生まれ、職場の先輩と話をしている時に「3学年差やん!卒業と入学が2人一緒に来るで!大変やで!」と言われその当時は「そっか…大変なのかな?」と軽く受け止めていました。上の子の小学校卒業、中学校入学を経験し、揃えないといけないものはたくさんあるし、何かとバタバタし、これが2人分一緒にしなければいけないと分かり「大変!!」と実感を持つようになりました。いよいよ来年3月、4月にその時を迎えることとなり、少し焦っています。

中学3年生を迎えた上の子は、中学1年生から最近まで勉強はほどほどに、部活はチームのみんな、顧問の先生に支えられ何とか頑張ってはいましたが、遊ぶことに夢中になり休みの日はほとんど家に帰らず、ずっと友達と一緒に外にいます。思春期、反抗期を迎え話しかけても「知らん」「いらん」「ほっといて」としか返って来ず毎日頭を抱え悩んでいました。友達やそのご家族、近隣の方にご迷惑をおかけすることも多々ありました。

子ども自身もどうしたらいいか悩んでいたかと思いますが、私もどう接したらいいか分からずすごく悩み、しんどくなってしまうこともありました。その都度、担任の先生やいつも話を聞いてくれる友達、そして何より下の子が私の話をいつも聞いてくれ、上の子との間に入ってくれたり、気晴らしに付き合ってくれたりといつも支えてくれました。

最初は上の子に怒ってばかりでしたが、友達からのアドバイスをもらい「精神面でのサポートが大切。生きてくれているだけでいい。勉強は本人ががんばろうと思えばいつでも取り返せる。」と思えるようになり、徐々にではありますが怒ることが減り、会話も増え、一緒に過ごす時間も増えています。

また、少し勉強する時間も増えたのかな?忘れものがないように意識するようになったかな?と感ずることも出てきました。

子育てで悩むことがたくさんありますが、子どもから学ぶこと、子どもを通じて関われる人が増えることなど悩むこと以上に嬉しいこともたくさんあります。これからも一緒に悩みながら、共に成長していきたいと思っています。



◇◆◇ 寄稿してくださったみなさま

ご協力ありがとうございました ◇◆◇

